

東京都港区芝公園1丁目で働く労働者のみなさん。私たちは、「東京都港区芝公園1-1-1 興和芝公園ビル2階」にある「社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会」（以下、「全日本育成会」とします）の事務局で働く労働者の分会です。芝公園1丁目で働く労働者は、ともに労働者の権利を護っていきましょう。

権利を奪われないために闘おう

東京都知的障害者育成会で起こった、しょうがい者差別事件（わいせつ事件）の判決が最近、報道されています（下の枠の中、ご参照）。どうして、このような事件が起こるのでしょうか？ そのわいせつ事件を起こした職員（労働者）は、労働者としての権利を損なわれていたからだと思います。また、その職員が日常から権利は大切なものだと考えていなかったし、教え

られてもいなかったからだと私たちは考えます。

自分の権利を主張せずに、労働者としての権利を放棄したとき、**権利侵害の連鎖**が生まれ、差別事件の発生につながります。このように、労働者の権利としょうがい者の権利はつながっています。

だから、労働者の権利を奪う者。それは、しょうがい者の権利も損なう者です。

東京都育成会は、しょうがい者の言うことをきちんと聞いて、職員のわいせつ行為を謝罪しろ

↓は、読売新聞による報道です。

知的障害者へのわいせつ行為、施設側に賠償命令

2011年10月28日 22時00分

東京都世田谷区の知的障害者施設で2006年、男性職員からわいせつ行為を受けたとして、当時10代後半だった姉妹らが、施設を運営する社会福祉法人「東京都知的障害者育成会」と元職員の男性に計約8300万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が28日、東京地裁であった。三村晶子裁判長は「被害を受けたとする姉妹の説明は信用できる」と述べ、同法人と男性に対し、計約660万円を姉妹に支払うよう命じた。

判決によると、姉妹は06年10月、3泊4日の予定で同施設に短期入所した際、男性から下半身を触られるなどした。被告側は「姉妹の説明はいまいで、作り話の可能性はある」と主張したが、三村裁判長は「姉妹の説明には不自然な点はあるが、核心的な部分は一貫しており、十分信用に値する」と結論付けた。

東京都育成会は控訴を取り消せ。施設側の責任をしょうがい者に押しつけるな。

そもそも「同性介護・複数担当」などの原則をふみはずして、差別事件を惹起した責任が施設側にあるのは明らかです。職員に対して、しょうがい者の権利についての教育が十分ではなかったことも明らかです。

それを今、しょうがい者の方に「作り話の可能性はある」などと、ウソと転倒した理屈で控訴をするのは責任逃れです。これでは障害者虐待防止法も意味がなくなります。差別事件が起こらない環境を作った事実があるなら、「差別事件は起こりえない」と反論し、立証すればいいのです。しょうがい者の責任にするの

は、しょうがい者差別です。東京都知的障害者育成会理事長＝全日本手をつなぐ育成会副理事長は、責任を明らかにし、控訴は「しょうがい者の権利侵害である」ことから、控訴を取り下げるべきです。全日本育成会分会は、しょうがい者とともに闘います。

このところ、ニュース号外の作成・配布で忙しくて22号から少し間が空きました。

10月13日、10月28日、10月29日、11月6日、11月10日の号外は、ホームページでご覧になれます。

証拠を差し替えても偽造の事実は打ち消せない。

被告・全日本育成会（理事会）による懲戒処分無効確認裁判の中で、全日本育成会が出してきた被告側証拠書類（乙号証といいます）には、驚くべき作為が入っていたことはこの分会ニュースの前号（22号10月11日発行）でもお知らせしたとおりです。

・・・・・・・・・・

乙1号証（事務所配置図） 偽造か？ 答えろ。

全日本育成会は、立証趣旨において「平成22年10月15日当時の被告の事務局の配置図であり、当時の事務局内部のレイアウト、各職員の座席等を明らかにする」と記載しているが、職員の座席をあえて入れ替えて描いています。乙6号証を見ると乙1号証の図面でわざわざ「職員の位置を入れ替えている」作為を行っていることがわかります。これは女性職員が入口に一番近い位置にいることをごまかすためにやったのでしょうか。そもそも乙6号証は「立ち位置についてのお問い合わせですが」とあるように、矢吹了一事務局長が質問したことへの回答として、職員がWEBメール＝裏メールしたものです。このように、被告はそれぞれの「立ち位置」に重大な関

心を持っているので、当然、乙1号証と乙6号証に重大な矛盾があることは承知しているはずですが。乙1号証と乙6号証では、女性職員から見たふたりの男性職員の位置が真逆になっています。

（旧）事務局配置図を「2010, 10, 15」の日付を入れて、新たにプリントしたものですが、その際にふたりの男性職員の位置を入れ変えるという作為が加わっています。裁判所や原告が、そんな作為が気が付かないと思ったのかもしれませんが、あえて作為を加えたものを証拠として提出したとしたら、愚かなことです。

・・・・・・・・・・

このように分会ニュース22号で書き、HPに掲載していたら、被告は11月21日に、この乙1号証の「偽造部分」を書き直したものを「「乙1号証（差替）」として出してきました。ももとの形に戻せば許されると思っているらしいです。「ばれなきゃ偽造だってやる。ばれたら直せば済む」というのが全日本育成会の態度だったところでしょうか。

労働組合員の「組合活動」を理由にして懲戒処分にした、と主張する全日本育成会

組合員の組合活動を理由にして懲戒

これまでは、「組合員であることはさておいて、職員としてふさわしくないからの懲戒である」かのように「背景は別の」ように言い訳めいたことを言っていた全日本育成会理事会（使用者）ですが、裁判を進めていくうちに、「懲戒の対象としている時間は、勤務についていない始業前であった時間帯であって、勤務中ではなかった」というように、主張を純化させてきました（11月21日付被告「準備書面（1）」）。典型的な不当労働行為です。

つまり、「職員就業規則に拘束されない時間帯についての処分」ということです。これでは、どんな時間帯・どんな場所での組合活動であろうと、使用者がお好みの懲戒処分を好き勝手に労働者に対してできる、という主張にもなります。そして理事会（使用者）が組合のやったことは「けしからん」ということだけで組合員である人間を処分できると使用者（全日本育成会理事会）が考えているということです。

ほかにも突っ込みどころ満載の11月21日付被告「準備書面（1）」ですが、数多くの珍論から、もうひとつをご紹介します。

被告・全日本育成会（理事会）のお粗末な珍論

被告・使用者側に協力した職員が、裏メールで2010年10月15日14時55分に、「ヨボヨボじいさん」と表記して送信したのは、「本来注意すべき表記方法について配慮が至っていない」ことであるが、それは、その朝9時10分ごろのできごとに「動揺したことの証左」だということです。高齢者をこんなに差別的に表現することになるくらいに、昼過ぎまで動揺するような事件だった、あるいは、興奮すると動揺がいつまでも納まらないキャラクターの職員だと言いたいようです。

ところが、この職員になぜか、この2010年10月15日の朝と「様子がとてもよく似ている」という録音を延々と聞かせてから陳述書を書かせています。これでは、はじめから、「本来注意すべき表記方法について配慮が至らない」ものしかできないという前提のうえで陳述書を作成して、それを証拠として提出していることになり、また、職員をいたづらに動揺させて仕事に支障が出ることをみずから行っているか、それとも時間外に興奮させていることになります。

そんなに職員をいじめたいのでしょうか。

芝公園1丁目 闘う労働者 ニュースコーナー (報告)

編集：ニュースコーナー編集委員会

10月21日 (金)

原発止めよう、東電直撃新橋アクション第5弾デモ

新橋アクションの第5弾デモが10月21日(金)に小雨の降る中、行われました。今回は、プロ級の太鼓演奏者を迎えて、アフリカンのリズムで、なんとも軽快！コールも新しいバージョンでデモに臨みました。

福島現地では、まったく安全のめども立たないのに、避難準備区域の一部解除を進めています。放射能汚染は、止まっていません。高圧洗浄で落ちるぐらいの放射能汚染は、すでに雨で流れています。屋根、雨どいなどに強く固着した放射能汚染が問題なのです。

しかし、政府は、御用学者による「安全・安心キャンペーン」を展開して、不安であることすら言えない環境を作っているのです。そして、野田政権は増税を打ち出し、原発の再稼働ありき、海外への原発輸出を進めるとしています。

新橋アクションでは、引き続き、東電の責任を追究していく仲間を広く集めて反原発、再稼働を許さないアクションを続けていきます。今回は、11月29日(火)是非、ご参加ください。

10月27日～29日

「ついに…女たちは立ち上がり、そして座り込む！～原発いらない福島の女たち～100人の風化されない座り込み」

原発は、もう真っ平！今すぐ止めたい！

福島の女たちがこの原発止めろ！に立ち上がりました。県内100人の仲間を集め、いざ東京霞が関、経済産業省の前へ。同じ思いの人たちに呼びかけます。「どうぞわたしたちと連帯してください！」

経済産業省前の座り込みは、連日福島のお母さんたちやそれを支持する人たちが多数集まり、「子どもを守れ！」「原発はすべて廃炉にしろ！」「命が大事！」「福島を、故郷を返せ！」「政府と東京電力は責任をとれ！」と経済産業省に向かって叫び続けました。

みんなで座り込み、次の日に行われる人間の鎖で経済産業省を取り囲む毛糸のひもを手編みして作っていました。いろいろな立場の方々が発言したり、音楽等で訴え続けました。

29日(日)は、11時半から日比谷公園から東京駅の近くの常盤公園まで、デモをしました。

私たちは、これに賛同する分会ニュース号外を作り参加者に手渡し、デモをいっしょにやりました。

土曜日で人通りの多い銀座通りを、福島の女たちを先頭に、約1000人が参加したデモでした。

11月6日(日)

全日本手をつなぐ育成会第60回全国大会への組合情宣！

11月5、6日の2日間、東京で全日本手をつなぐ育成会第60回全国大会が開催されました。

11月6日、ユニオン東京合同全日本育成会分会は、会場の国際フォーラムにほど近い、有楽町駅前に早朝から大会へ参加する参加者に向けて、マイク情宣と、分会ニュース号外の配布を行いました。組合は毅然と登場し、全日本育成会の職場問題、東京都育成会のわいせつ事件問題などを報告し、「会員も職員もおかしいことに声を上げていこう」と訴えました。

会場内でこの分会ニュース号外について、大きな反響があったことが組合にも、伝わっています。会の内外に大きな反響を作った情宣で、大きな手ごたえを感じました。

11月6日(日)

怒りを力に！反原発・反失業！国際統一行動を！ 全国労働者総決起集会

この日、全国から6000人の参加で、日比谷野音は埋め尽くされました。

福島原発の事故と再稼働問題、大失業と非正規化攻撃で労働者を攻撃してくる新自由主義と闘う韓国、ドイツ、アメリカから参加がありました。

ストライキで闘う動労千葉、動労水戸、1047名解雇撤回闘争を粘り強く推進している国鉄労働者を先頭に、闘う潮流が結集し、日本の戦闘的労働運動を再生させる闘いが世界の労働者の反乱と固く結合しつつあることを明らかにしました。

また、福島現地からも大勢の参加者があり、福島の現状を訴え、福島の子供たちを守れ、私たちはもう黙ってられない。福島の怒りは、絶対に収まらない、日々高い線量の中で暮らすことへの不安、仕事も失い、仕事もない、こんなこと黙ってられない、こんな、原発政策を推進した政府、東電を許さずフクシマに連帯して闘いをしていこうと、会場が大喝采でした。

集会の後には、7梯団で、日比谷公園から東京駅の近くの常盤公園まで、元気よくデモをしました。

芝公園1丁目 闘う労働者 ニュースコーナー (インフォメーション)

編集：ニュースコーナー編集委員会

新橋アクション 原発止めよう！東電本社直撃デモ ～友達誘って一緒に歩こう！～

「放射能は安全」キャンペーンを打ち破って、抗議の声を上げていこう！

11月29日(火) 18:00 JR新橋駅SL広場集合 18:30デモ出発：桜田公園
コース：桜田公園→柳通り→外堀通り→東電前→新橋駅前→桜田公園 約40分

新橋アクション学習会 第2弾「低線量被ばくの不安と脅威」

好評だった9月30日の学習会に続く、放射能汚染関係の第2弾。もっと放射能汚染について深めるために学習会を開きます。今回の講師は、福島で行われている『小児健康相談会』に参加している千葉県船橋二和病院の柳沢裕子先生をゲストにお迎えします。先生は、福島の子どもたちに起きている被ばくの兆候について、見逃してはならないと警鐘を鳴らしています。

「子どもたちの鼻血、難治性下痢、インフルエンザのような症状が増えていることがわかりました」と報告しています。そして、「これまでに頼ってきた医学的知識では説明できないような状況に直面している」と言っています。

政府の都合や、安全を取り繕うために、安全基準を引き上げるだけ、ということはやってはいけません。今、私達は、何がそこで起きているのか直視し、冷静に考え、行動するときです。当日は、子どもたちを放射能から守る福島ネットワークのビデオ上映も行う予定もあります。是非、ご参加ください。

日時：2011年12月9日(金) 18時30分～21時 ※終了後交流会あり。

場所：きゅりあん 最寄の駅：JR大井町駅 徒歩1分

報告者：柳沢 裕子医師 (千葉県 船橋二和病院 内科医)

参加費：300円(資料代)当日、会場でお支払ください。

連絡先：原発とめろ！新橋アクション実行委員会

品川区大井1-34-5 河野ビル5階 なんぶユニオン内 TEL/FAX 03-3778-0717

メール：nanbuunion@yahoo.co.jp

さよなら原発集会！

2011年12月10日(土) 13時30分から、日比谷野音に集合しよう！

あの明治公園の6万人の「さよなら原発集会」を企画したグループの、大規模なデモが予定されています。政府は、原発の再稼働のために動いています。安全な原発など、この世の中にありません。原発を止めるデモをしましょう！！

【ご紹介コーナー】『子どもたちを放射能から守れ～福島のたたかい』(DVD 新発売！)

子どもたちを放射能から守る福島ネットワークの「子どもたちは、絶対に守る！」その闘いがDVDになりました。文科省の20MSV引き上げや、市町村で独自に除染を行うことにブレーキをかけた後、政府にまかせていたら子どもを殺される。親たちは立ち上がり、そして行動を開始した。このドキュメンタリー映画のDVD(37分)は必見です。

制作・ナレーター：湯本雅典

取材協力：子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク、福島県教職員組合郡山支部 他

DVD 価格：2,000円(内、1,000円は子どもたちを放射能から守る福島ネットワークにカンパします)

問い合わせ先：yumo@estate.ocn.ne.jp 携帯090-6039-6748(湯本)